

1 新たな都市計画マスタープラン策定にあたっての課題の抽出・整理

現行の目標	現 状 《強み・弱み》	現行プランの進捗状況	アンケート調査 《市民・事業所・大学生》	社会経済情勢の変化	都市政策の動向 (法改正等)	多様な主体との連携・協働によるまちづくり
広域的に人を引きつける魅力ある都市 <small>(土地利用(中心市街地)・都市交通体系(ハード面))</small>	《強み》 ・県庁所在都市としての広域的機能の集積 ・広域交通の結節点：四国横断自動車道、徳島小松島港、JR等 ・まちなか観光資源の集積：阿波おどり会館、眉山ロープウェイ、徳島中央公園等 《弱み》 ・市全体の昼夜間人口比率が低下傾向 ・中心市街地における商業や文化施設の閉鎖、商業販売額・売場面積・従業者数・歩行者交通量の減少、建築物の老朽化や都市機能の更新の遅れ等 ・鉄道による中心市街地の分断	《土地利用》(中心市街地) ・新町西地区市街地再開発事業の見直し →新たな再開発事業の動き(民間主導) →県市協調による新ホール整備計画 ・ひょうたん島川の駅ネットワーク推進事業による魅力づくり ・中心商店街活性化支援、情報発信、イベント開催等(新型コロナウイルスの影響有) ・鉄道高架事業関連まちづくりは、中心市街地の状況変化により遅れ 《都市交通体系》(ハード面) ・四国横断自動車道の整備進展(継続) ・徳島環状道路の整備、暫定供用(継続)	《市民》 ・公共交通の利用やまちなかでの徒歩の移動のしやすさは、満足度、改善度ともに低い 《事業所》 ・渋滞対策のバイパス等に対する改善は評価されているが、満足度は低い ・空き店舗・空き地の解消によるまちの活性化、再開発等による中心市街地の再生に対する関心が高い一方、満足度、改善度は低い 《大学生》 ・大学卒業後の居留意向では「住み続けたくない(住みたくない)」という回答が6割超 ・若者にとっての定住条件は、娯楽・遊戯施設の充実やまちなかの活性化、通勤・通学のための交通機関の充実	◎人口減少・超高齢化 ▶大都市圏への人口集中 ▶全国の自治体が地方創生に取り組み ▶人口の社会増のため「住みたい」と思えるまちづくり ▶「人生100年時代」の到来による健康・医療・福祉のまちづくりへの取組	◎土地利用分野 ▶都市再生特別措置法の改正 ・コンパクトシティ追加(H26) ・都市のスポンジ化対策追加(H30) ・まちなかのにぎわい創出追加(R2)	
少子高齢社会を支える人にやさしい都市 <small>(土地利用(生活拠点)・都市交通体系(ソフト面)・都市防災・住環境)</small>	《強み》 ・鉄道は徳島駅を中心にJR4路線が運行バスは市内外を網羅的に運行 ・市中心部、国道192号線沿線などではバスの運行頻度が多い 《弱み》 ・徳島駅周辺は、食料品等の生活に密着した商業店舗が少ない ・公共交通の分担率は低く、徳島駅、佐古駅、蔵本駅以外は、駅前広場がない ・安全で快適な自転車通行空間が整備された道路が少ない ・南海トラフ地震発生の切迫性、台風の常襲地帯 ・都市公園施設の老朽化が進行	《土地利用》(生活拠点) ・立地適正化計画を策定し、居住促進区域、都市機能誘導区域を設定 《都市交通体系》(ソフト面) ・公共交通の利便性向上：バスロケーションシステムやスマホ定期券等の導入 ・コミュニティバスに対する支援 《都市防災》 ・ハード対策：橋りょうの耐震化、避難場所や避難路等の整備 ・ソフト対策：ハザードマップの作成等 《住環境》 ・狭あい道路の整備、木造住宅の耐震化、危険廃屋解体支援等	《市民》 ・防災まちづくり(地震・津波・水害)は、重要度が高い一方、満足度と改善度ともに低い ・公共交通の活性化、自転車通行環境の整備、スポーツやレクリエーション施設、子ども向け施設の充実は、満足度が低い ・自動車での移動のしやすさや買い物の利用のしやすさ、医療・福祉や公民館・コミュニティセンターの充実に対する満足度は高い ・公園等の利用のしやすさは、やや改善度が低い 《大学生》 ・大学生のイメージでは「公共交通が充実した移動しやすいまち」とは思わない傾向にある ・通勤・通学のための交通機関の充実は、重要度が高く満足度が低い	◎都市の低密度化・スポンジ化 ▶今後の都市構造として「コンパクト・プラス・ネットワーク」を形成 ▶集約型都市構造の形成：居住促進区域・都市機能誘導区域の設定 ▶「居心地が良く歩きたくなる」まちなかづくり ▶空き家や低未利用地等が増加し、市街地の低密度化が進行 ▶新たな住宅地開発の適正化	◎交通分野 ▶地域公共交通の活性化及び再生に関する法律の改正(R2) ◎水・緑分野 ▶都市緑地法等の一部改正(H29)	
水と緑と共生する持続可能な都市 <small>(水と緑の都市環境・都市景観)</small>	《強み》 ・吉野川をはじめ大小138の河川が流れ、三角洲地形が多く島の形成するなど特徴的な自然を基盤に都市が形成 ・水と緑に恵まれたまちなか：新町川、助任川や眉山、城山等 ・1人当たりの公園面積は国の水準をクリア 《弱み》 ・自然的土地利用を支える農林水産業の従事者の高齢化、担い手不足 ・下水道の普及率が低い	《水と緑の都市環境》 ・植物園でのイベントやひょうたん島川の駅ネットワーク推進事業等を実施 ・市有林の管理や、森林環境譲与税を活用した森林整備を実施 ・下水道の整備及び維持管理、浄化槽の設置及び転換の促進(河川の水質保全) 《都市景観》 ・徳島市景観まちづくり条例等に基づく指導・助言 ・文化財の活用：徳島城跡、一宮城跡 ・LED景観整備	《市民》 ・自然の豊かさや街並みなどの景観の美しさに対する満足度は高い 《大学生》 ・徳島市のまちのイメージは、「水と緑にあふれた自然が豊かなまち」が最多	◎自然災害の激甚・頻発化 ▶地震 ・北海道胆振東部地震(H30) ・大阪府北部地震(H30)等 ▶水災害 ・令和3年7月伊豆山土砂災害 ・令和2年7月豪雨 ・令和元年東日本台風 ・平成30年7月豪雨等	◎住宅分野 ▶空家等対策特別措置法の施行(H26) ◎防災分野 ▶国土強靱化基本法の施行(H25) ▶都市再生特別措置法の改正 ・自然災害への対応追加(R2)	
市民が参加し行動する都市 <small>(協働によるまちづくり)</small>	《強み》 ・町内会、自治会、衛生組合、PTA、老人クラブ、婦人会、子ども会、文化団体などの各種組織がある ・各地域にコミュニティ協議会有る 《弱み》 ・地域社会を支える各種団体の役員や構成員が高齢化、固定化 ・若い世代、子育て世代のまちづくりへの参加が少ない	《協働によるまちづくり》 ・住民活動に対する補助を実施 ・地域の多様な主体が連携・協働しながら、地域社会の運営に参加し、地域課題を自ら解決する「新たな地域自治協働システム」の構築に向けての検討 ・地域づくり活動団体等に対する支援	《市民》 ・市民と行政とが役割分担をしながら協働でまちづくりを行うべきとの意見や、何らかの形で、まちづくりに参加したいとの意見が6割超 《事業所》 ・まちづくりに参画している、若しくはまちづくりに積極的に参画したいと考えている事業所が8割超	◎脱炭素社会への転換 ▶都市の低炭素化から、脱炭素社会への転換(加速化) ▶「グリーンインフラ機能」を有する農地・緑地等の保全・活用	上位計画・関連計画の策定・改定 ▶徳島市総合計画2021-水都とくしま「新創造」プラン(R3.3策定) ▶徳島市国土強靱化地域計画【令和2年度版】(R3.3改定) ▶徳島市立地適正化計画(H31.3策定) ▶徳島市地域公共交通網形成計画(R2.3策定)	
◎技術革新の進展 ▶デジタル化・スマート化の推進 ▶国が目指す「Society5.0」	◎SDGsの浸透 ▶SDGsの普及から実装段階へ	◎新型コロナウイルス感染症を契機に生じた変化 ▶新たな生活様式(ニューノーマル)への対応 ▶地方回帰の流れ ▶テレワークの進展・普及 ▶対面交流を伴わないコミュニケーションの増加(オンライン)				

2 新たな都市計画マスタープラン策定の方向性～主要課題等を踏まえた計画の体系イメージ～【コンセプト図】


SDGs（持続可能な開発目標）の実装